

第 8 章 教育研究等環境

1. 現状分析

評価項目①

教育研究等環境の整備に関する方針に基づき、学生の学習、教員の教育研究活動に必要な環境を適切に整備していること。

<評価の視点>

- ・教育研究等環境の整備に関する方針に基づき、学生の学習環境や教員の教育研究環境を適切に整備しているか。
- ・学生の学習や教員の教育研究活動の必要性に応じてネットワーク環境や I C T 機器を整備し技術的な支援を行う等により、それらの活用を促進しているか。
- ・学生及び教職員の情報倫理の確立を図るために取り組んでいるか。

《全学的な方針》

- 『教育研究等環境の整備に関する方針』に基づき、学生の学習環境や教員の教育研究環境の整備を進めている。同方針では、国際的教育・研究・臨床拠点にふさわしいキャンパス環境に向けて施設設備の充実を図るとともに、地球温暖化等が環境に及ぼす影響に配慮し、施設設備の適切な維持管理と有効活用を推進することとしており、「大学キャンパス・ホスピタル再編事業」、「施設・設備の維持管理」、「教育研究環境の整備」、「ICT 教育研究基盤整備」の 4 つの項目に沿って方針をまとめている。

(大大評 8 - 1 法人ホームページ 「各種方針」 「教育研究等環境の整備に関する方針」)

《大学キャンパス・ホスピタル再編事業》

- 『教育研究等環境の整備に関する方針』では、各キャンパスや附属病院群における施設・設備の再整備・拡充に関する取り組みについて、以下の方針を明示している。

教育研究等環境の整備に関する方針（抜粋）

<大学キャンパス・ホスピタル再編事業>

- ・ 創立 175 周年記念事業として推進してきた「大学キャンパス・ホスピタル再編事業」について、当初計画された本郷・お茶の水キャンパスの再編事業が完了した。引き続き、各キャンパス・附属病院群の施設・設備の再整備と拡充を図り、全学に亘る教育・研究・臨床活動の更なる向上を目指します。
- ・ 新たに建設する建物は、「100 年建築」、「他の範となる病院建築」、「エコロジー建物」を基本コンセプトに、先進的なエコロジー技術を導入したエコキャンパス・エコホスピタルを実現し、安全・快適・安らぎのある癒しの空間を創出して、国際的な教育・研究・臨床拠点となる環境整備を行います。

- 2009(平成 21)年 7 月に、法人本部に「大学キャンパス・ホスピタル再編事業事務局」を設置し、教育研究環境の整備うち土地取得、建物の解体・建設、大規模移転を伴う事業を「再編事業」と位置づけ、同事務局を中心に対応している。同事務局では、各地区の中長期の教育研究環境整備計画の立案・実行や、キャンパス周辺の土地・建物等の取得の必要性の精査及び取得手続きなどについて、組織的に支援している。
- 創立 175 周年記念事業として、2006(平成 18)年より開始した「本郷・御茶の水キャンパス再編事業」では、15 年の歳月をかけて A 棟、B 棟、C 棟、D 棟、新研究棟の整備を行った。2020(令和 2)年 9 月に竣工した新研究棟については、国内の大学施設で初となる米国環境性能認証 LEED (Leadership in Energy and Environment Design) の New-Construction 版プラチナ認証のほか、国内では CASEBEE (建築環境総合性能評価システム) -建築(新築) 第三者認証の S ランク認証を取得するなど、省エネルギー性能について高い評価を受けている。

(大再編 8 - 1 本郷再編整備スケジュール資料)

第 8 章 教育研究等環境

(大再編 8－2 法人ホームページ 学校法人として日本初の LEED-New Construction 版・プラチナを取得_2021 年 6 月)

- 現在進めている計画として、文京区の旧元町小学校・元町公園の一体的活用整備事業がある。元町地区の活性化を図るための官民連携事業の事業者として本学が選定され、文京区と連携して、2022(令和 4)年度より元町ウェルネスパークの建設に取り組んでいる。2025(令和 7)年に供用を開始し、本学の研究施設のほか、東京都難病相談・支援センターや病児・病後児・医療的ケア児保育施設、認定こども園、インターナショナルプリスクール等の設置を予定しており、スポーツ・医学・社会の連携を図る様々な取り組みを展開する計画である。

(大企画 8－1 令和 5 年度事業報告書_大学キャンパス・ホスピタル再編事業計画)

《施設・設備の維持・管理》

- 『教育研究等環境の整備に関する方針』では、施設・設備の維持・管理について、以下の方針を明示しており、法人部門に設置する総務部及び施設部が中心となって対応している。

教育研究等環境の整備に関する方針（抜粋）

<施設・設備の維持・管理について>

学生や教職員等にとって安全・安心で利用しやすい施設・設備を整備し、適切に維持管理を行うことにより教育研究環境を向上させることを基本方針とします。

1. 建物の基本性能として、キャンパス内建物の構造耐震化はすべて完了していることから、今後は、防災機能などの性能向上を図ります。震災時の被害軽減のため家具の固定を進め、天井等の非構造部材についても、耐震性能を調査し、必要に応じて対処していきます。
2. 学生数の増加、研究の高度化・多様化に対応する教育研究施設の整備を行います。また、快適なキャンパスライフを支える施設・設備の充実を図ります。
3. 日常の維持管理は、外部委託を活用し、専門性の高い設備運転、保守点検等により、快適な学習、研究、医療環境を提供するとともに防災機能の維持、事業継続計画の強化・見直し及び省エネルギーの推進を目指します。
4. 地球温暖化対策として、CO₂排出量管理、フロン管理、廃棄物管理など地球環境負荷低減への取り組みを継続します。
5. キャンパス内の階段や段差個所には、スロープやリフトを設置し、教室においても車椅子の学生が受講出来るようにバリアフリー化を継続的に推進します。

(1) 日常の施設管理

- 各キャンパスの施設・設備の維持・管理及び運営については、本郷・お茶の水キャンパスは施設部、その他キャンパスは各事務部門が所掌している。施設設備の維持管理は予防保全を原則としているが、故障や破損の発生による影響が少ない設備については事後保全としている。施設の破損、設備の故障については発生の都度、速やかに修理する体制を整えている。
- 各部門では、建築基準法、消防法等による建築、設備に関する法定点検・報告はもとより、日常的な保守点検による故障の回避、安全の確保に努めている。空気環境測定、飲料水水質検査等、基礎的な環境衛生測定を行うことにより、環境維持に努めている。
- 専門性が高い施設・設備の維持管理及び清掃、廃棄物の処理等に関しては、外部に業務委託をしている。所管部署が日々の精度管理を行うとともに、委託業種毎に「業務評価委員会」を開催し、委託業務の適切性について毎月検証している。

(2) 防災への取り組み

- 建物の耐震化に関して、本郷地区においては、2022(令和 4)年 8 月にセンチュリータワー1 階の耐

第 8 章 教育研究等環境

震天井工事が完了し、本工事をもって本郷地区の非構造部材の耐震化が完了した。

- 防災機能の維持・向上については、日常的な管理に加え、年 2 回の消防設備点検を実施しており、検出された軽易な不具合は速やかに修繕している。震災被害軽減のため、新規購入備品やレイアウト変更の際には転倒のおそれがある家具の固定を進めている。
- 各地区の対応として、さくらキャンパスでは、体育館プール新築工事に伴い、2023(令和 5)年 5 月に井水プラント（自家発電により稼働が可能）を増設した。浦安・日の出キャンパスでは、2 号館建設工事に伴い、同年 7 月に太陽光パネルを設置し、商用電力途絶時には監視盤室のコンセント回路に給電可能となっている。同年 10 月に外部に風力及び太陽光で点灯する外灯も設置した。三島キャンパスでは、断水時に受水槽から直接採水可能な設計とし、災害備蓄倉庫を拡充させる計画（2024 年度使用開始予定）である。
- 総務部総務課では、平成 28(2016)年度に、本郷地区に大地震が発生した際に学生・教職員・来訪者等の生命及び身体の安全確保を最優先とした対策を講じるとともに、学内資産の保全、教育研究等の継続又は速やかな再開を目指すことを基本方針にした「防災計画・事業継続計画」(BCP:Business Continuity Planning)を策定している（10 章第 1 節 P.149）。
（大総務 8－1 大地震による被災を想定した防災計画・事業継続計画(BCP)）

(3) 地球環境負荷低減への取り組み

- 地球環境負荷の低減に向けて、「省エネルギー法」に基づき、学内に CO₂ 排出量を管理する「省エネルギー推進委員会」を設置し、省エネルギー推進活動に取り組んでいる。
- 本郷・お茶の水キャンパスは、東京都が実施する「総量削減義務と排出量取引制度」（大規模事業所（前年度の燃料、熱、電気の使用量が、原油換算で年間 1,500kL 以上の事業所）に CO₂ 排出量の削減義務を課すもの）の適用を受けており、施設部施設課では、CO₂ 削減目標の達成に向けた設備投資計画を含む『地球温暖化対策計画書』を作成している。同計画書に基づき、本郷・お茶の水キャンパス内施設の照明の LED 化、動力・熱源機器の高効率化等の対策を進めるとともに、省エネの推進に対する教職員への啓発及び理解促進に努めている。
- 各地区では、CO₂ 排出削減を推進するための計画として「CO₂ 削減ロードマップ」を作成している。同ロードマップでは、病院・キャンパスを含めた法人全体での CO₂ 排出量を、2030(令和 12)年までに 2013(平成 25)年度実績値比 46%に削減する目標を掲げ、その実現に向けて取り組んでいる。
- 本郷・お茶の水キャンパスでは、東京ガスとの間で、医療機関では初となる「カーボンニュートラル都市ガス」（以下 CN 都市ガス）の導入契約を締結し、2021(令和 3)年から CN 都市ガスの供給を開始している。これにより年間 5,000t 相当の CO₂ 排出量を森林吸収により相殺する効果が見込まれる。また、2022(令和 5)年度より、7 号館（10 号館含む）及びセンチュリータワーにおいて、電気需給契約を「ゼロエミッション電力」に切り替え、年間 6,000t の CO₂ 排出量削減を実現している。こうした取り組みの結果、省エネ法に基づく資源エネルギー庁に対する定期報告において、本学は 2022 年度実績で「S ランク」（最上位の目標達成事業所）に認定されている。
（大施設 8－1 法人ホームページ 順天堂と東京ガスによるカーボンニュートラル推進に向けた取り組みについて_2022 年 1 月）
- 総務部総務課が主体となり、「4R (Reduce, Reuse, Recycle, Replace) の実践により、循環型エコキャンパス・ホスピタルの実現を加速させる」ことを目標に、各キャンパス、各附属病院にて取り組みを推進している。学内ポータルサイトを通じて廃棄物の分別管理を周知・徹底しており、廃プラスチック等のリサイクルを推進している。
（大総務 8－2 エコキャンパス・ホスピタルの取り組み）

第 8 章 教育研究等環境

(4) バリアフリーの取り組み

- 施設のバリアフリー化に関しては、本郷・お茶の水キャンパスでは、2020(令和 2)年 9 月に新研究棟(7 号館)が完成し、キャンパス内の全ての建物についてバリアフリーアクセス及びトイレ環境整備が完了した。さくらキャンパスにおいては、2021(令和 3)年 3 月に講義棟が完成し、同様のバリアフリー環境が整備された。三島キャンパスにおいては、新築した 2 号館に SOGI に対応したトイレを試験的に導入する計画となっている。

《教育環境の整備》

- 教育研究環境の整備については、全学的に以下の方針を明示している。

教育研究等環境の整備に関する方針(抜粋)

<教育研究環境の整備について>(抜粋)

- ・ 国際的研究・教育拠点として、先端的かつ学際的な異分野融合型の研究を推進し、学術の進展や社会と産業界の要望に柔軟に対応できるよう、最先端の教育研究環境の充実を図ります。

- 各学部・研究科では、それぞれが定める教育研究環境整備に関する方針に基づき、施設・設備の整備・更新を段階的に行っている。教育研究用機器については、各教員からの申請をとりまとめ、審査・選考を経て、教授会や教務委員会等で審議の上、導入している。
- 各キャンパスで近年実施された主な教育施設・設備の整備は、以下のとおりである。

さくらキャンパス	・ 2021(令和 3)年 3 月に、3 号館(新講義棟)を整備。 ・ 2023(令和 5)年 7 月に、第 3 体育館(小川スーパーアリーナ)を整備。可動床式 50m プール、アリーナ、診療所を設置。実技実習授業や部活動のみならず公式戦・国際大会の会場としても活用。また、2 号館教室改修工事を行い、什器や旧式の AV・ICT 機器を更新。
浦安キャンパス	・ 2022(令和 4)年 9 月に、学術メディアセンターを改装し、大学院研究室、大学院会議室を設置。大学院自習室を改装し、ラーニングコモンズを設置。 ・ 2022(令和 4)年 9 月に、同キャンパスで保有する多数のシミュレーターを集約し、共同研究施設として「大学院医療看護学研究科シミュレーション教育研究センター」を整備。看護学領域において関東圏で最大規模の施設であり、研究拠点・人材育成拠点として活用。
三島キャンパス	・ 2021(令和 3)年度に、マルチメディア教室、実習室、会議室の AV・ICT 設備を更新。遠隔会議やハイブリッド型授業に対応。 ・ 定員増に対応するため、2024(令和 6)年 3 月に 2 号館を整備。1 階に大教室(3 室)、2 階にラーニングコモンズ、演習室(8 室)、3 階に屋内運動場、多目的スペースを設置。
浦安・日の出キャンパス	・ 医療科学部が使用する校舎として、2021(令和 3)年 12 月に 1 号館が竣工。また、体育館、フットサルコート、テニスコートを整備。 ・ 健康データサイエンス学部が使用する校舎として、2023(令和 5)年 7 月に 2 号館を整備。教室のほか、ラーニングコモンズ、学術メディアセンター等、キャンパス共用施設を設置。

- この他、文部科学省「私立学校施設整備費補助金(私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費)」を活用し、教育基盤設備の充実を図っている。2022(令和 4)年度は医学部解剖学・生体構造科学講座から申請した「80 列マルチスライス CT 装置 Aquilion Lighting/Helios 一式」が採択されている。

第8章 教育研究等環境

(大IR2-8 法人ホームページ「情報公開(基本情報)」「事業報告」)

《研究環境の整備》

(1) 研究支援体制

- 教育研究環境の整備については、全学的に以下の方針を明示している。

教育研究等環境の整備に関する方針(再掲)

＜教育研究環境の整備について＞

- ・ 国際的研究・教育拠点として、先端のかつ学際的な異分野融合型の研究を推進し、学術の進展や社会と産業界の要望に柔軟に対応できるよう、最先端の教育研究環境の充実を図ります。

- 研究活動を支援するための中心的な組織として、①基礎・応用研究を支援する「研究戦略推進センター」、②臨床研究や治験を支援する「臨床研究・治験センター」、③実用化研究を支援する「革新的医療技術開発研究センター」を設置している。当該3機関は、「順天堂 ARO (Academic Research Organization)」を構成し、学内・学外の研究者に対する様々な支援を提供している。
- 研究戦略推進センターは、競争的研究費を含む各種研究支援金の申請・執行支援のほか、知的財産・特許出願や共同研究等の推進といった産学連携支援に関する業務を所掌し、組織的なワンストップサービスを提供している。リサーチ・アドミニストレーター (URA) を導入した研究力強化、ブランディング化支援も行っている。

(大研戦8-1 順天堂大学研究戦略推進センター管理運営内規)

- 臨床研究・治験センターは、順天堂医院の附属機関として、学内外の臨床研究、治験の推進を所掌し、臨床研究・治験の実施に向けた研究開発戦略の策定、プロトコル(実施計画書)の策定、倫理審査の実施、研究実施体制の構築等をシームレスに支援することで、研究開発の円滑な実施を支援している。

(大臨治8-1 順天堂大学医学部附属順天堂医院 臨床研究・治験センター運営規程)

(大臨治8-2 臨床研究・治験センター ホームページ 順天堂 ARO の支援について)

- 革新的医療技術開発研究センターは、革新的医療技術の実用化・事業化に向け、本学との共同研究又は連携に関心のある企業・研究者に対し、本学研究者とのマッチング、共同研究の組成から社会実装に至るまでに必要な支援(研究シーズの実用化・事業化支援、知財技術移転支援、大学発スタートアップ創出支援等)を提供している(9章P.129~131)。

(大革新8-1 順天堂大学革新的医療技術開発研究センター管理運営規程)

(大革新9-3 ポータルサイト 革新的技術開発研究センター)

(2) 先端的な教育研究環境の整備

- 特定の専門分野に特化し、高度な教育と研究の機能を有する大学院附属の研究センター・研究所として、以下の施設を設置し、全学を挙げて分野融合型の共同研究を推進している。

・ アトピー疾患研究センター	1998(平成10)年度開設
・ 老人性疾患病態・治療研究センター	2000(平成12)年度開設
・ 環境医学研究所	2002(平成14)年度開設
・ スポーツ健康医科学研究所	2005(平成17)年度開設
・ スポートロロジーセンター	2007(平成19)年度開設
・ 先導的がん医療開発研究センター	2013(平成25)年度開設
・ ゲノム・再生医療センター	2013(平成25)年度開設
・ 女性スポーツ研究センター	2014(平成26)年度開設

第 8 章 教育研究等環境

・ 静岡災害医学研究センター ・ 難病の診断と治療研究センター ・ ジェロントロジー研究センター ・ 脳血管内治療学研究センター ・ AI インキュベーションファーム ・ シミュレーション教育研究センター ・ 健康創薬先端リサーチセンター	2015(平成 27)年度開設 2016(平成 28)年度開設 2021(令和 3)年度開設 2021(令和 3)年度開設 2021(令和 3)年度開設 2022(令和 4)年度開設 2023(令和 5)年度開設
---	--

(大研戦 8-2 研究施設の概要 2023)

- 2023(令和 5)年 10 月に、大学院医学研究科に「健康創薬リサーチセンター」を新設した。本学における臨床シーズを効率的に開発研究に結びつけ、学術的基礎研究の推進及び医薬品産業への支援を図り、大学発の健康・機能性素材や医薬品の開発に携わる研究者及び専門職の養成を行うことを目的としている。
- 共同研究講座・寄付講座・産学協同研究講座等の設置を積極的に推進している。2023(令和 5)年度は、講座設置数は 62(共同研究講座 46、寄付講座 12、産学協同研究講座 4)となり、引き続き講座数は高い水準で推移している。

(大研戦 8-3 法人ホームページ 「共同研究講座・寄付講座・産学協同研究講座」)

(3) 全学的な研究活動の推進体制の整備

- 全学的な研究活動を推進するための組織として、「健康総合科学先端研究機構」(2017(平成29)年度開設)、「スポーツ健康医科学推進機構」(2021(令和3)年度開設)、「国際共同研究機構」(2021(令和3)年度開設)を設置している。
- **健康総合科学先端研究機構**は、学長の主導により設置され、部門横断型の機関プロジェクト研究の推進を図り、順天堂ブランドとなるプロジェクト研究の情報発信拠点としての機能を果たしている。文部科学省私立大学研究ブランディング事業の2つのプロジェクトを推進している。

(大研戦 8-4 順天堂大学健康総合科学先端研究機構管理運営規程)

- **スポーツ健康医科学推進機構**は、本学のスポーツ資源を有効活用し、マネジメントする全学的な組織で、「Health Promotion(健康・スポーツロジー)」、「Next Generation(子どもたち)」、「Community(地域・まちづくり)」、「High Performance(競技力向上)」をテーマに様々なプロジェクトを展開している。

(大研戦 8-5 順天堂大学スポーツ健康医科学推進機構管理運営規程)

- **国際共同研究機構**は、連携協定を結んだ海外の大学との共同研究に係る連携強化を目指す組織で、同機構のもとに、「北京大学-順天堂大学国際共同研究センター」、「ジョンズ・ホプキンス大学-順天堂大学国際共同研究センター」及び「順天堂大学-マヒドン大学国際共同研究センター」がある。同機構がこれらのセンターを統括し、国際共同研究の一層の促進、国際学術ネットワークの拡大、国際的な視野を持つ若手研究者の育成等に取り組んでいる。

(大研戦 8-1 順天堂大学国際共同研究機構管理運営規程)

《ICT 教育研究基盤整備》

(1) 実施体制

- 全学の ICT 教育研究基盤の整備については、『教育研究等環境の整備に関する方針』で以下の方針を定めている。法人本部に設置する「順天堂情報センター本部本郷地区情報センター」(以下、「本郷地区情報センター」)が中心となり、各キャンパスの情報センター等と連携して、教育研究部門における情報ネットワーク環境の整備に取り組んでいる。

第 8 章 教育研究等環境

教育研究等環境の整備に関する方針（抜粋）

<ICT 教育研究基盤整備>

- ・ ICT を活用した授業を展開するとともに、双方向授業によるアクティブラーニングを推進するために情報基盤整備を行います。
- ・ 無線 LAN 接続環境を整備するとともに、キャンパス間ネットワークの充実を図り、ネットワーク環境を整備します。
- ・ 情報セキュリティを整備し、情報の保全及び管理を行います。
- ・ 遠隔・対面ハイブリッド講義に対応した教室環境を整備します。

（大情 8－1 学校法人順天堂情報センター本部本郷地区情報センター規程）

- 教育研究部門における情報システム及び情報ネットワークの運用管理・利用に関する基本規程として『学校法人順天堂情報セキュリティポリシー』、『順天堂大学学術ネットワーク運営規程』を制定している。同ポリシーに基づき、各地区及び各部門に「情報セキュリティ管理責任者」及び「情報セキュリティ運用責任者」を配置し、情報システムの運用管理、情報セキュリティの整備等にあっている。

（大情 8－2 学校法人順天堂情報セキュリティポリシー）

（大情 8－3 順天堂大学学術ネットワーク運営規程）

- ICT の整備については本郷地区情報センターで年間計画を策定し、進捗を検証している。

(2)環境整備の状況

- 本郷地区情報センターでは、上記の計画や教職員からの要望等に基づいて段階的に環境整備を進めており、教室 AV 機器の導入・更新や学内 LAN ネットワークの敷設や回線の増強、無線 AP の追加等を実施するなど、環境構築・改善に努めている。また、ソフトウェア環境の充実、学内ポータル等による技術支援などを行っている。各学部・研究科では、以下のような環境の下で ICT を活用した授業（4 章 P. 34～35）を展開している。

キャンパス通信環境	全ての学生が無線 LAN を利用可能
教室のメディア環境	① 本郷・お茶の水キャンパス大教室、中教室、実習室を中心に AV 設備を完備、各キャンパス間で相互に遠隔講義が実施できる遠隔講義システムを導入 ② マルチメディア教室に CBT 対応のパソコン教室を整備 ③ 形態系実習室、解剖学実習室にバーチャルスライド環境を整備
教務システム	Juntendo-Passport
ソフトウェア	順天堂メール、Office365、SAS、JMP、BOX、Slack、SPSS
遠隔講義の対応	① 遠隔講義に活用できる Web 会議サービスとして、Google Meet、Microsoft Teams に加え、Zoom ライセンスを 2020(令和 2)年 4 月から契約し、最大 300 人の学生が同時に自宅からそれぞれの講義に参加できる学習環境を整備。 ② Zoom オプションライセンスを契約し、教室設置の既存テレビ会議システムと Zoom を接続することで、対面授業と Zoom によるリアルタイム配信授業のハイブリッド型授業に対応。 ③ 2022(令和 4)年度から Zoom ウェビナーライセンス契約を拡充し、最大 10,000 人まで講義に参加できる環境を整備。さくらキャンパス等の大人数講義に常時対応できるようにした。Google Classroom、Microsoft Stream 等の課題管理、動画配信サービスを活用することでオンデマンドでの学習環境を整備。

第 8 章 教育研究等環境

- この他、文部科学省「私立学校施設整備費補助金（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費）」を活用し、教育基盤設備の充実を図っている。2023(令和 5)年度は本郷地区情報センターから申請した「本郷・お茶の水キャンパス ICT 活用推進事業」が採択されている。
(大 I R 2-8 法人ホームページ「情報公開（基本情報）」「事業報告」)
- 近年における環境整備は以下のとおりである。

①学生通信環境の向上

2023(令和 5)年度の取り組みとして、本郷・お茶の水キャンパスでは、センチュリータワーの教室無線 AP について文部科学省補助金を活用して、一部学生から全学生が利用可能なキャパシティに増強した。第二、第三教育棟を含むソフトバンク社 VPN 拠点の回線を増速のうえ、インターネット出口を北海道 DC 経由の SINET 利用とすることで VPN 拠点の Zoom 等で逼迫している通信をスムーズに行えるよう改善を図ると共に、センチュリータワーから抜ける通信の削減を実施した。

②講義環境の向上

2022(令和 4)年度の取り組みとして、本郷・お茶の水キャンパスでは、センチュリータワー教室のプロジェクターをランプ方式からレーザー方式へ変更し、高輝度化、消費電力低減化、ランプ交換不要化の対応を行った。また、各教室の黒板カメラを更新して常設 PC へのカメラ・マイク入力環境を整備し教室での Zoom 実施を容易にした。既設の教室のテレビ会議システム併用、Zoom 単体利用ともに対面授業と Zoom によるリアルタイム配信授業のハイブリッド型授業に対応している。三島キャンパスでは、小教室、演習室、エントランスホール等の AV システムを更新し対面授業と Zoom によるリアルタイム配信授業のハイブリッド型授業に対応出来るよう整備した。

③ネットワーク環境の整備

2017(平成 29)年度に、本郷・お茶の水キャンパスのインターネット回線を 100Mbps から 1Gbps にアップグレードし、高速ネットワーク環境を整え、センチュリータワーの老朽化した学内 LAN ネットワーク機器を更新した。2021(令和 3)年度に上記のインターネット回線 1Gbps の 2 重化を実施して事業継続性を高めた。2019(令和元)年度に、第二教育棟、第三教育棟等が接続される閉域網を束ねる回線を 100Mbps から 300Mbps にアップグレードし、高速ネットワークを整えた。

④ソフトウェア環境の充実

2020(令和 2)年度に、マイクロソフト包括ライセンス契約 (EES) を更新し、最新の Windows、Office を教職員・学生が利用できるように環境整備を行った。2021(令和 3)年度に、統計解析ソフトとして SAS、JMP を教職員・学生が利用できるように環境整備を行った。以前より、文献検索・論文作成ソフトウェア「Endnote」が無料で使用できる環境にある。2022(令和 4)年度に、チャットツールとして Slack、統計解析ソフトとして新たに SPSS が利用できるように環境整備を行った。

(3) 情報セキュリティ、情報の保全・管理

- CSIRT (Computer Security Incident Response Team) 体制を整備すべく、現在、『情報セキュリティポリシー』の見直し及び情報セキュリティ関連規程の策定を行っており、2024(令和 6)年度中に整備する方針である。
- 標的型攻撃メール訓練実施、サイバー保険加入、各種セキュリティサービス契約 (FW、MDM、DNS セキュリティ、EDR 等)を実施している。2022(令和 4)年度からサーバの既知の脆弱性検知・管理ができるクラウドサービス「yamory」にて各種サーバのセキュリティ脆弱性対策を進めている。本郷・お茶の水キャンパスの常設 PC を対象として WindowsOS アップデートを一元管理する WSUS サーバの導入を実施した。
- 個人情報の取り扱いに関するルールとして『個人情報保護に関する基本方針』、『個人情報保護管理規程』、『情報システム利用に伴う危機対応マニュアル』を制定し、教職員による個人情報の適正か

第 8 章 教育研究等環境

つ厳格な管理、各部署の管理体制の構築、情報技術面（匿名化、暗号化等）の措置を図っている。

（大情 8－4 学校法人順天堂個人情報保護に関する基本方針）

（大情 8－5 学校法人順天堂個人情報保護管理規程）

（大情 8－6 ポータルサイト 情報システム利用に伴う危機対応マニュアル）

（4）情報倫理の確立のための取り組み

- 情報倫理の確立を図るため、本郷地区情報センターでは 2000（平成 12）年に『学術ネットワーク運営規程』を策定し啓発するとともに、新入生向けの情報倫理講義、教職員向けの標的型攻撃メール訓練を毎年実施している。『情報倫理ガイドライン』や『順天堂大学ソーシャルメディア利用ガイドライン』を策定し、学生及び教職員に啓発している。

（大情 8－7 情報倫理ガイドライン）

（大情 8－8 順天堂大学ソーシャルメディア利用ガイドライン）

評価項目②

図書館サービス及び学術情報サービスを提供するための体制を備えていること。また、それらを適切に機能させていること。

＜評価の視点＞

- ・ 教育研究等環境の整備に関する方針に基づき、図書その他の学術情報資料を体系的に整備しているか。
- ・ 図書館には、学生及び教員の利用のために、必要な専門的な知識を有する職員を含む人員を適切に配置しているか。また、図書館等の施設環境が適切であるか。

＜図書館サービス・学術情報サービスの提供＞

（1）実施体制

- 図書施設・サービスの整備に関して、『教育研究等環境の整備に関する方針』では、①図書や雑誌に加えて、学術情報の電子契約を推進すること、②特色ある学問分野の学術情報を系統的、機能的に収集すること、③多様化する需要や利用形態に対して、最適な学術情報サービスの提供に努めること等の方針が示されている。

教育研究等環境の整備に関する方針（抜粋）

＜教育研究環境の整備について＞（抜粋）

- ・ 学術メディアセンターでは、図書や雑誌に加えて、学術情報の電子契約を推進します。特色ある学問分野の学術情報を系統的、機能的に収集するとともに、多様化する需要や利用形態に対して、最適な学術情報サービスの提供に努めます。

- 教育研究等に係る情報環境の整備を図り、情報を円滑かつ効果的に提供するための組織として、各キャンパスに「学術メディアセンター」を設置している。同センターでは、教育研究等に必要な図書資料及び電子資料の収集管理、教職員及び学生への利用サービスの提供、教育研究に関する情報発信を支援する環境整備、マルチメディアを利用した教育研究方法の企画・運営支援などを行っている。また、同センターの業務に関する事項を協議するため、「学術メディアセンター運営協議会」を設置している。

（大学メ 8－1 順天堂大学学術メディアセンター規則）

- 学術メディアセンターは、本郷・お茶の水キャンパス、さくらキャンパス、浦安キャンパス、三島キャンパス、浦安・日の出キャンパスに設置している。順天堂医院を除く各医学部附属病院に図書室を設置している。静岡病院と浦安病院には専任職員を配置しており、他の 3 病院には本郷・お茶

第 8 章 教育研究等環境

の水キャンパス学術メディアセンターが学術情報サービスの支援を行っている。

(2) 施設の整備・運用状況

- 各学術メディアセンターの規模・設備等は、以下のとおりである。書架、書庫、閲覧室等の施設や学内ネットワーク環境、電源設備等を整備しており、適切な利用環境を提供している。

①本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター

- ・ センチュリータワー9 階に位置し、閲覧室、図書・雑誌の書架、利用者用 PC、事務室を配置している。7 号館 2 階レストランの書架で教員著作図書の展示・図書企画展示の紹介等を行い、情報発信の場としている。
- ・ 入口に入退館システムを設置している。センチュリータワー内に無線 LAN が設置されており、利用者が持参する PC から学内ネットワークを通じて学術資料を利用できる。学外からも学術情報を利用できるように、資料の電子契約を積極的に進めている。

②さくらキャンパス学術メディアセンター

- ・ 3 階建ての独立棟で、1 階に書庫、グループ・ルーム、事務室、2 階に新着雑誌、視聴覚資料、参考書、辞典類、一般図書、閲覧席、利用者用 PC、カウンター、ラーニング・コモンズ、事務室、3 階に学生図書、専門図書、閲覧席を設置している。
- ・ 入口には、持出防犯ゲートシステムを設置している。センター内に無線 LAN を設置し、利用者持参の PC が利用できる環境を整備し、ノート PC の館内貸出しも行っている。

③浦安キャンパス学術メディアセンター

- ・ 正門脇校舎 1・2 階部分にあり、1 階に一般図書、新着雑誌、視聴覚資料、閲覧席、利用者用 PC、視聴覚用席、大学院生用研究室及び事務室、2 階に看護・医学系図書、製本雑誌、閲覧席、大学院カンファレンスルームを設置している。入口には、持出防犯ゲートシステムを設置している。キャンパス内全体に無線 LAN が設置されており、持参 PC の利用が可能である。
- ・ 看護学生が臨地実習で利用する順天堂医院、浦安病院、順天堂越谷病院、順天堂東京江東高齢者医療センター、練馬病院等に、実習用図書を設置している。また本郷に看護図書を提供しており、学生と看護師も利用可能としている。

④三島キャンパス学術メディアセンター

- ・ 校舎 2 階にあり、カウンター、事務室、雑誌架・書架・移動書架がある。書架の傍らに学習用机、閲覧用椅子を設置している。センター内には、利用者用 PC を 22 台、利用者用タブレットを 1 台設置しており、ノート PC の貸出しも行っている。校舎全体に設置された無線 LAN により、利用者は持込 PC の利用が可能である。
- ・ 看護学生が臨地実習で利用する静岡病院に、実習用図書を設置している。

⑤浦安・日の出キャンパス学術メディアセンター

- ・ I 期棟校舎 5 階にあり、2023 年 10 月にⅡ期棟 1 階に移設した。閲覧室には基本図書とともに、学習用机や閲覧席を設置している。校舎全体に設置された無線 LAN により、利用者は持込 PC の利用が可能である。

(大学基礎データ 表 1)

(大学基礎データ 表 20)

- 学生及び教員の利用のために、本郷・お茶の水、さくら、浦安の 3 キャンパスでは、専任の司書と事務職員を配置している。三島キャンパスでは、司書資格を持つ事務室兼任の事務職員と専任の事務職員を一人ずつ置いている。浦安・日の出キャンパスでは、現在、同キャンパス事務室職員が開館・閉館等の運用を行うとともに、本郷・お茶の水キャンパスから学術情報サービスに関する支援を行っているが、2024(令和 6)年度に専任の職員を配置する予定である。
- 講義開始前や終業後にも利用できるよう、各キャンパスの状況に合わせた開館時間を設定している。土曜日は全ての館で開館しており、本郷・お茶の水キャンパスでは医療従事者が利用できるよう、

第8章 教育研究等環境

大学休日となる第二土曜日（8:30-17:00）と日曜日（13:00-17:00）も開館している。閲覧室の座席数は、学生収容定員に応じた席数を整備している。収容定員に対する座席数の割合は、5館で7.3%となっている。

（大学基礎データ 表20）

（大学基礎データ 表21）

- キャンパスにより利用傾向は異なるが、電子資料の普及等により来館者数・貸出冊数は漸減している。2023(令和5)年度は、前年度に続き COVID-19 感染対策による臨時休館や開館時間短縮、オンライン講義による来館機会減少の影響があった。2022(令和4)年度より増加したものの、コロナ禍以前の来館者数・貸出冊数を下回っている。

（大学基礎データ 表20）

(3) 図書その他の学術情報資料の整備、利用サービスの状況

- 全学の合計図書数は303,397冊で、本郷の一部資料以外は開架式書架である。雑誌、特に欧文誌は電子ジャーナルへの移行を進めており、欧文誌と和文誌の合計で47,333種類が閲覧可能である。2023(令和5)年度には大学全体で、2,408冊の図書を受け入れた。オンライン講義や自宅学習に利用できるよう、基本図書の電子書籍契約を進めている。

（大学基礎データ 表1）

（大学基礎データ 表18）

- 電子媒体の学術情報（電子ジャーナル、電子書籍、データベース、文献管理ソフト等）は、学術メディアセンターのウェブサイトからアクセスできる。蔵書検索は、全学の所蔵図書と電子資料を一括して検索可能である。直近では『利用の手引き』を改訂し、電子資料の利用案内を行った。

（大学メ8-2 本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター利用の手引き）

- 文献複写サービスは、附属病院の医師・職員や、卒業生からの依頼も受け付けている。国立情報学研究所のNACSIS-ILLに参加し、未所蔵文献の入手とともに、電子ジャーナルの所蔵登録を進めて他機関への文献提供にも努めている。明治大学中央図書館と、文京区の4つの医学図書館（東京大学・東京医科歯科大学・日本医科大学・文京学院大学・順天堂大学）の相互協力協定により、相互に情報サービスを提供している。

（大学基礎データ 表20）

- 学術メディアセンターでは、「順天堂大学学術情報リポジトリ」を構築し、3つの研究科（医学研究科、スポーツ健康科学研究科、医療看護学研究科）における学位論文の本文及び要旨をインターネット上に公開している。2020(令和2)年8月に『順天堂大学オープンアクセス方針』等を制定し、本学からの学術成果の発信を進める体制を整え、学術情報リポジトリに学術雑誌論文の掲載を開始した。2022(令和4)年度には、『順天堂スポーツ健康科学研究』の掲載も開始している。

順天堂大学オープンアクセス方針（抜粋）

（趣旨）

1 順天堂大学は、本学に在籍する教職員等によって得られた研究成果を広く学内外を問わず公開することにより、学術研究のさらなる発展に寄与すること、またその成果を社会に還元することで、地域および国際社会の持続的発展に貢献することを目的として、オープンアクセスに関する方針を以下のように定める。

（研究成果の公開）

2 本学は、「順天堂大学における学術研究活動に係る行動規範 第1条（研究者の定義）」に規定する教職員等・学生等（以下「教員等」という。）が、出版社、学協会、学内部局等が発行する学術雑誌

第 8 章 教育研究等環境

等に掲載された研究成果（以下「研究成果」という。）を、以下のいずれかの方法によって公開する。
研究成果の著作権は、本学には移転しない。

- （１）「順天堂大学学術情報リポジトリ」に登録する。
- （２）オープンアクセスジャーナルに掲載する。
- （３）論文のオープンアクセス・オプションを選択し、出版社ウェブサイトに掲載する。
- （４）外部の機関が設置するリポジトリ等に登録する。

（大学メ 8－3 順天堂大学学術情報リポジトリ）

（大学メ 8－4 順天堂大学オープンアクセス方針）

（大学メ 8－5 順天堂大学オープンアクセス方針実施要項）

(4) 図書その他の学術情報資料の選定状況

- 学術情報の整備にあたっては、各キャンパスに設置する「学術メディアセンター運営委員会」又は「担当委員会」において、選定や契約等に関する審議を経て決定している。現在は、電子ジャーナル・電子書籍の整備に力を入れており、電子化が進んでいない図書や和雑誌を中心に冊子を購入している。電子情報については、可能な限り各キャンパスや附属病院において必要な場所からアクセスできるよう契約範囲を設定している。
- 図書は、授業等での活用や予習・復習ができるよう、学修に必要な教科書や参考図書をはじめ、各学問分野における初学者向け図書から専門図書まで、体系的に揃えるように努めている。併せて教養図書をはじめ、語学学習図書、実習図書、資格試験や就職活動に関する図書等を備え付けている。
- 電子ジャーナルは、購読誌の価格や契約条件、学術的な価値、利用状況等を総合的に判断して、定期的に購読アンケートを実施し、契約の見直しを行っている。調査・利用・価格・学術的な評価を考慮して契約している。新規に創刊されたタイトルは、学問分野における重要度等を参考にして、各センターの運営委員会等で購読の可否を審議している。恒常的な値上げに加えて、契約条件（構成員数や病床数）の増加による価格上昇もあるが、日本医学図書館協会と大学図書館コンソーシアム連合による共同購入の仕組みを活用して、適正価格での購読契約を図っている。
- 図書・雑誌の所蔵確認や貸出・返却等は、全学共通の図書館業務システムにより運用しており、資料の貸出・返却・予約等は各キャンパスから可能である。購読契約がなく閲覧できないタイトルについては、他大学の図書館に文献複写を依頼することで入手の便宜を図っている。

評価項目③

研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

<評価の視点>

- ・ 研究に対する大学の基本的な考えに沿って、長期的な視点に立った支援や条件整備を十分に行い、各教員の研究活動の活性化につなげているか（教員に対する研究費の支給、研究室の整備、研究時間の確保、専門的な研究支援人材の活用等の人的な支援、若手研究者育成のための仕組みの整備等）。
- ・ 研究倫理や研究活動の不正防止に関する規程を定め、かつ、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っているか。

- 『教育研究等環境の整備に関する方針』では、研究活動に関わる支援や条件整備、研究倫理や研究活動の不正防止に向けた取り組みに関する基本的な考えとして、以下を定めている。

第 8 章 教育研究等環境

教育研究等環境の整備に関する方針（抜粋）

＜教育研究環境の整備について＞（抜粋）

- ・研究活動の高度化と活性化のために、共用研究機器等の研究環境の整備を図るとともに、競争的研究費獲得を支援します。
- ・SA・TA・RA を拡充するとともに知財担当や URA 等の研究支援要員も適切に配置し、教育研究支援体制を整備します。
- ・研究倫理遵守に関する教育・研修を行うとともに各種規程に基づき研究費の適正な執行と管理を行います。
- ・「順天堂大学利益相反マネジメント規程」に基づき、利益相反の適切な管理に努め、学術研究活動等を適正かつ円滑に推進します。

＜研究活動に関わる支援、条件整備＞

(1) 研究費の支給

- 『順天堂大学の研究費に関する要領』にて、専任教職員が教育研究活動を行う上で必要とする経費の一部を補助するための研究費について、必要な事項を定めている。基礎的研究費として、「学内研究費」を教員個人又は講座・研究室に配分している。医学部では各講座・研究室・研究分野に配分し、その他の学部では各専任教員へ配分している。医学研究科では、講座・研究室への固定予算の他に、所属大学院生数に応じた変動予算を加える方式を採用している。スポーツ健康科学部では、専任教員の研究費については算定基準（役職や科研費継続申請の有無等）に基づき配分している。医療看護学部、医療看護学研究科及び保健看護学部では、個人研究費は役職に応じて定めた額を分配している。保健医療学部及び保健医療学研究科では、専任教員全員に一律同額を分配している。
（大研戦 8－6 順天堂大学の研究費に関する要領）
- 各学部・研究科では、講座・研究室又は教員個人への研究費の配分のほか、教育研究上の特性を考慮し、学部・研究科独自のプロジェクト研究補助、共同研究補助等の各種助成を行っている。
（大大評 8－2 各学部・研究科の教育研究等を支援する取り組み）
- 研究戦略推進センターでは、競争的研究費として、学内公募型の研究費補助を行っている。申請に基づき審査を経て交付される学内部門横断型の研究費として、①全学を対象とする「学長プロジェクト研究費」「学長若手プロジェクト研究費」「学長プロジェクト研究費（リスタートアップ支援）」、②各学部・研究科における「プロジェクト研究費」、③大学院附属研究所・研究センターにおける「プロジェクト研究費」等を整備し、採択者に研究費を交付している。
（大研戦 8－7 ポータルサイト 学長プロジェクト研究費）
（大研戦 6－1 学長プロジェクト研究費公募要領）
（大研戦 8－8 ポータルサイト 共同プロジェクト研究費）
- 同センターでは、各種規程に基づき研究費の適正な執行と管理を行うために、毎年『公的研究費使用マニュアル』を作成し研究費に携わる者に配布することで、研究費の使用に関するルールや知識の定着を図っている。
（大研戦 8－9 順天堂大学公的研究費使用マニュアル 2023 年度）
- 革新的医療技術開発研究センターでは、教員に対する研究費として、産学連携研究・実用化研究の促進・活性化に向けた各種の助成制度を設けている（9 章 P.130）。

(2) 研究室の整備

- 研究室については、原則として、教授には個人研究室を、准教授以下の教員には共同研究室を整備している。

第8章 教育研究等環境

- 研究設備・機器の効果的・効率的活用を目的とした研究支援施設として、1972(昭和47)年度に「共同研究室」を整備している。同室は、「疾患モデル研究センター」(1999(平成11)年度開設)及び「研究基盤センター」(2003(平成15)年度開設)へ発展的に改組し、先端的教育研究を支える学内共同利用施設となっている。

(大研戦8-10 順天堂大学大学院医学研究科疾患モデル研究センター管理運営規程)

(大研戦8-11 順天堂大学大学院医学研究科研究基盤センター管理運営規程)

- 疾患モデル研究センターは、医学研究及び医学教育に欠かせない動物実験を行う施設として整備され、動物の種類に応じ特定飼育区画・特定網室等の拡散防止措置を設けるなど、適切な管理体制が敷かれている。適切に実験を遂行できる環境・設備を提供するとともに、研究者に対して、動物実験及び実験動物に関する基礎知識(関連法規、ガイドライン、実験実施方法、動物愛護等)の修得を目的とした教育訓練を実施している。
- 研究基盤センターは、研究支援機能を持った研究中核施設(中央共同研究施設)として位置付けられている。研究に必要な施設や機器・設備類を中央機構で導入し大学全体で保管・管理するとともに、各施設に専任スタッフを配置し、研究の効率化や精度を高めていくための支援を行っている。
- 研究活動の高度化と活性化を更に促す取り組みの一つとして、各研究センターが真に必要としている機器を購入することができるよう、研究戦略推進センターが中心となり共有機器選定に係る仕組みを構築している。本制度を利用して整備した共有機器は、学内外を問わず多くの研究者が利用することができる。

(大研戦8-12 【募集案内】教研機器A枠(基盤センター優先枠)及び(センター共有設備枠))

- 文部科学省「私立大学等研究設備費等補助金(私立大学等研究設備等整備費)」を活用し、研究基盤設備の充実を図っている。2022(令和4)年度は研究基盤センター細胞機能研究室から申請した「Cell Motion Imaging System SI8000」、2023(令和5)年度は同センター共同研究・研修室(I)から申請した「シングルセル分注機 CellenONE システム」及び医療看護学部から申請した「分娩台マミージョイ」が採択されている。

(大IR2-8 法人ホームページ「情報公開(基本情報)」「事業報告」)

(3) 研究時間の確保

- 教員の研究時間の確保は、教育・研究・行事等の時間配分に左右されることから、学部長及び研究科長による適切で公平な裁量により可能な限り研究時間の確保に努めている。授業時間割及び定例会議開催日時を配慮し、研究に専念できる時間を確保できるようにしている。

(大大評8-2 各学部・研究科の教育研究等を支援する取り組み)

- 国際交流センターでは、教員の教育研究に関する資質向上のため、大学における業務を一定期間免除し、国内外の教育・研究機関において研究活動に従事することができるよう、2021(令和3)年2月に「サバティカル研修制度」を整備している。本制度は、継続勤続年数が7年以上の専任教員(45歳以下の教員については3年以上)を対象とし、研修期間は6月以上1年以内(必要と認められる場合は2年以内)としている。2023(令和5)年度は5名を海外に派遣した。

(大国交8-1 順天堂大学教員のサバティカル研修に関する規程)

(大国交8-2 教員のサバティカル研修制度活用実績_2023年10月現在)

(4) 専門的な人材の活用による研究支援

- 研究戦略推進センターでは、専門的な人材による以下の支援を提供し、研究者が研究に専念できる環境の整備を進めている。

第 8 章 教育研究等環境

①研究力強化に関する支援

2012(平成 24)年度より、高度学術専門職員（リサーチ・アドミニストレーター）を採用。本学研究者の研究力強化（企画力、発信力、発表力）に向けた支援やブランド力の向上に資する企画・調査・分析などを提供。

- ・ 科研費等公的研究費や民間財団の研究費の申請における申請書作成支援、教員向け講習会や面談等の実施
- ・ 本学研究学術論文における「研究成果プレスリリース」の国際発信支援
- ・ 国際共同研究において、本学が分担研究機関となり米国や EU 等の競争的資金へ申請する際の、登録情報の集約や相手機関との交渉窓口、プロジェクト立案段階からの支援
- ・ 論文作成支援ツールなど、研究活動に役立つ情報の学内ウェブサイトへの公開

②知的財産に関する支援

教職員の職務発明に関する権利を保障し、研究意欲の向上を図るとともに、発明の活用による研究成果の普及及び実用化・事業化を促進するための体制として、同センターに「知的財産室」を設置し、3 名の弁理士を配置。研究・技術相談、技術移転相談、契約業務支援、知的財産の組織的管理などに対応。

③安全保障輸出管理に関する支援

『順天堂大学安全保障輸出管理規程』に基づき、輸出管理体制を整え、国際的な人的交流や共同研究等を行う研究者に対し最新の情報を提供するとともに各学部・研究科において教授会を利用するなどして啓発活動を行っている。

具体的な取り組みとしては、「外国人等の受入」、「海外出張」、「海外への技術・情報の提供」等の前に、安全保障上の懸念の事前確認を行い、その懸念の程度に応じて適切に処理し、確認結果を組織として記録。

④産学連携（講座設置）に関する支援

同センターに「産学官研究連携推進室」を設置し、産学官研究の連携及び推進を図り、知的財産の組織的な管理及び維持に関して、共同研究、受託研究、受託事業、寄付金等の外部資金の獲得の戦略、支援及び管理を行い、産学官連携活動の強化を図る。

（大研戦 8－13 順天堂大学特定職員（高度学術専門職員）に関する内規）

（大研戦 8－14 順天堂大学リサーチ・アドミニストレーター（高度学術専門職員）に関する規則）

（大研戦 8－15 法人ホームページ 「研究活動」「研究戦略推進センター」 URA）

（大研戦 8－16 学校法人順天堂知的財産取扱規程）

（大研戦 8－17 順天堂大学安全保障輸出管理規程）

（大研戦 8－18 順天堂大学における安全保障輸出管理について）

- **革新的医療技術開発研究センター**では、研究開発支援を専門とする医師や行政機関等への出向経験のある医師、実用化研究開発の知識・経験に富んだエキスパートを多数配置し、学内外の研究活動を推進している（9 章 P. 129～130）。

（大革新 9－4 GAUDI パンフレット）

- **各附属研究センター・研究所**では、専任の教員を配属するとともに、教員と共同して研究プロジェクトを推進するポストドクター(PD)や、教員の指示の下に研究を補助するリサーチ・アシスタント(RA)の受け入れを積極的に行っている。例えば、2023(令和 5)年度の PD は大学全体で 37 名、医学研究科の RA は 24 名、スポーツ健康科学研究科の RA は 5 名である。

（大研戦 8－19 順天堂大学大学院研究スタッフに関する規程）

(5) 若手研究者・女性研究者支援

第 8 章 教育研究等環境

- 研究戦略推進センターでは、前記（本章 P.110）のとおり、競争的研究費として、若手研究者及び女性研究者を対象とする学内公募型の研究費補助（学長若手プロジェクト研究費、学長プロジェクト研究費（リスタートアップ支援））などを行っている。
- 各学部・研究科による若手研究者の支援の取り組みとして、スポーツ健康科学部では、若手研究者及び大学院生を対象とした助成を設けている。医療看護学部では、個人研究費と別に、申請要件に年齢や職位の制限のある奨励研究費を設けている。保健看護学部では、研究計画書や研究論文の執筆について、職位が上の教員が指導するなど領域単位での指導体制を採っている。国際教養学部では、個人研究費の配分にあたり、研究奨励の意向から、若手教員に対する配分を手厚くしている。保健医療学部では、学内研究費の配分を一律にすることで、若手教員の研究を支援している。
- 教育研究活動及び就労の場において、男女共同参画及びダイバーシティの推進を図るとともに、次世代を担う女性研究者の積極的な登用及び研究振興を図るため、2011(平成 23)年に「男女共同参画推進室」を設置し、2022(令和 4)年に「ダイバーシティ推進センター」に改組している。同センターでは、女性医師・研究者に対し、仕事と家庭の両立支援、研究支援、女性上位職登用・育成に関する取り組みを行っている。
（大ダ推 8－1 学校法人順天堂ダイバーシティ推進センター管理運営規程）
- 本学は、2015 年(平成 27)年度に続き、2022(令和 4)年度に文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)」に東京医科歯科大学との共同実施機関として採択され、女性上位職登用・育成を中心とした学内のダイバーシティ研究環境の推進に係る取り組みを行っている。
- 本事業に基づき、ダイバーシティ推進センターでは、特に女性研究者支援に力を入れており、准教授候補者層を対象とした研究費助成（「学長プロジェクト(若手女性枠)」）の設置や、教授候補者層を対象とした助成（「女性大学人育成支援」：グローバルリーダー育成に向けた勉強会メンバーを対象とした、研究費又は研究支援員の委託費の助成）などの取り組みを行っている。研究費の支援や研究支援員の配備等を行うことで女性研究者の研究の促進を図り、女性上位職の登用促進を図る計画である。事業終了の 2027(令和 9)年度末までに女性教授・准教授を 50 名増やすことを目標としている。事業開始時点(2021(令和 3)年 5 月 1 日)で女性教授・准教授の総計は 159 名であったが、2023(令和 5)年 5 月 1 日時点で 197 名(+38 名)となり、目標の達成に向けて進捗している。
（大ダ推 8－2 法人ホームページ「ダイバーシティ推進センター」「採択プロジェクト」）
（大ダ推 8－3 令和 5(2023)年度 学長プロジェクト(若手女性枠) 募集要項）
（大ダ推 8－4 女性大学人育成支援_グローバルリーダー育成に向けての勉強会メンバーを対象とした支援の実施について）
（大ダ推 8－5 女性教授・准教授数の推移）
- この他、女性研究者への研究費助成に関しては、2023(令和 5)年度より「学長プロジェクト研究費(リスタートアップ支援)」を設けている。妊娠、出産、育児、介護等のライフイベント等により研究活動を中断した専任教員等を対象として、研究の継続や、研究の停滞を取り戻すための研究費を助成する仕組みであり、1 名が採択されている。また、2011(平成 23)年度に開始した「ワーク・ライフ・バランス実現のための研究支援制度」では、医学部における、出産・育児・介護等のために十分な研究時間を確保できない女性研究者を対象に、研究支援員を配備し、研究と子育て等の両立を支援している。同制度では、本学でのキャリアアップを目指す教員を支援する「上位職育成枠」と、学位取得を目指す医学研究科在籍者を支援する「研究環境整備枠」を設けている。
（大ダ推 8－6 ポータルサイト 学長プロジェクト研究費(リスタートアップ支援)）
（大ダ推 8－7 学長プロジェクト研究費(リスタートアップ支援)公募要領）

第 8 章 教育研究等環境

(大ダ推 8－8 2023 年度 ワーク・ライフ・バランス実現のための研究支援制度 利用者の募集について)

《健全な研究活動を行うための取り組み》

(1) 研究倫理や研究活動の不正防止に関する規程の整備

- 本学の研究者が、建学の精神に基づき、倫理的責任感をもって学術研究活動を行うよう、2007(平成 19)年に『順天堂大学における学術研究活動に係る行動規範』を制定している。本規範では、研究者は①行動規範に沿って誠実に行動すること、②研究・調査データの厳正な取扱いを徹底し、不正行為を行わないこと、③責任ある研究の実施と不正行為が生じない公正な環境の確立・維持に努め、研究環境の質的向上並びに不正行為抑止の教育啓発に継続的に取り組むこと等を定めており、本学で研究に携わる教職員や学生(学部学生、大学院学生、研究生、外国人研究生、専攻生等)に対し、公正な研究活動に取り組むよう周知・啓発を行っている。

(大研戦 8－20 順天堂大学における学術研究活動に係る行動規範)

- 研究活動に係る不正行為の防止及び不正行為が生じた場合の措置について必要な事項を定めた規程として、2007(平成 19)年に『順天堂大学における公正な研究活動の推進に関する規程』を定めている。研究戦略推進センターでは、本規程に基づき、研究倫理の遵守や不正防止に向けた体制整備や各種取り組みを行っている。

(大研戦 8－21 順天堂大学における公正な研究活動の推進に関する規程)

(2) 倫理教育・コンプライアンス教育の実施

- 各大学では、競争的資金等の運営・管理に関わる全ての構成員に対し、自らのどのような行為が不正に当たるのかを理解させるための「コンプライアンス教育」(機関の不正対策に関する方針及びルール等)を実施することが、文部科学省『研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)』で求められている。
- これを受けて、本学では、2015(平成 27)年に『順天堂大学研究倫理に係る教育・研修要領』を制定するとともに、同ガイドラインにおいて推奨されている e-learning による研究倫理教育プログラム(一般財団法人公正研究推進協会の「APRIN e-learning プログラム」及び独立行政法人日本学術振興会(JSPS)の「研究倫理 e ラーニングコース(eL CoRE)」)を導入し、競争的資金等の運営・管理に関わる全ての構成員(大学院学生、学部学生も含む)に対して受講を義務付けている。同要領は、2019(令和元)年に『順天堂大学研究倫理教育に関する実施要領』に改正している。

(大研戦 8－22 順天堂大学研究倫理教育に関する実施要領)

- 例えば、大学院医学研究科では「APRIN e-learning プログラム」を導入し、大学院低学年コース及び大学院高学年コースの受講を必須としている。大学院スポーツ健康科学研究科では、全大学院生を対象に、「APRIN e-learning プログラム」又は「eL CoRE」の受講を義務付けている。大学院医療看護学研究科及び大学院保健医療学研究科でも、「APRIN e-learning プログラム」を導入している。これに対して、学部学生は、授業において必須項目を含む研究倫理教育で「研究倫理教育プログラム」の受講に替えており、e-learning 受講を推奨している。
- この他、各学部・研究科では、研究倫理も含め、倫理教育について、計 59 の授業科目を開講している。また、医学研究科では、『順天堂大学大学院医学研究科・研究ガイドライン』も整備し、大学院における研究倫理の普及・啓発を図っている。

(大大評 8－3 各学部・研究科における倫理に関する科目一覧)

(大院医 8－1 順天堂大学大学院医学研究科・研究ガイドライン)

第 8 章 教育研究等環境

(3) 利益相反への対応

- 『順天堂大学利益相反マネジメント規程』に基づき、研究者に利益相反の開示・報告を義務付け、「利益相反マネジメント委員会」により検討・審議を行う体制を構築している。人を対象とする医学系研究の実施時には、研究者に個人の収益等の当該研究に係る利益相反について自己申告を義務付け、「医学系研究利益相反マネジメント委員会」の審査を受けることとしている。
(大研戦 8-23 順天堂大学利益相反マネジメント規程)
(大研戦 8-24 順天堂大学医学系研究利益相反マネジメント規程)
- **研究戦略推進センター**では、医学系研究に係る利益相反に関する自己申告として、①利害関係が想定される企業・団体での活動（兼業による個人収入等）について、②申告者が当該研究題目に係る関連企業等の役員就任予定がある場合、③産学連携活動等としての資金の受け入れ（共同・受託・公的研究費、奨学・使途指定寄付金等）、寄付講座、共同研究講座、産学協同研究講座を設置する場合について、④物品の購入、無償提供、業務委託等の場合は、申告に基づき審査を行っている。また、科研費等競争的研究費の採択時期に採択者及び会計管理事務担当者へ向けて利益相反対応を含めた説明会（オンデマンド視聴等）を行っている。

(4) その他（各部門の取り組み）

- 人を対象とする医学系研究については、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和 3 年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第 1 号）に基づき、2021(令和 3)年に『人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理規程』を制定するとともに、当該規程に定めるモニタリング・監査の手順書等を整備している。
(大臨治 8-3 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理規程)
- 国の倫理指針に基づき、各部門では下表の規程を定め、それぞれに設置された「倫理審査委員会」が研究計画の適否について判断している。各部門で倫理委員会を開催し事前審査を行うことにより、倫理的妥当性や安全性を確保している。各部門の倫理委員会では、外部委員の参加を義務付けている。

医学部・医学研究科	順天堂大学医学部研究等倫理要綱 順天堂大学医学部医学系研究等倫理委員会規程 順天堂大学臨床研究審査委員会規程
スポーツ健康科学部・ スポーツ健康科学研究科	順天堂大学スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科研究等倫理要綱 順天堂大学スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科研究等倫理要綱実施規程
医療看護学部・保健看護学部・医療看護学研究科	順天堂大学看護系大学院研究科及び学部に係る研究等に関する倫理委員会規程
保健医療学部	順天堂大学保健医療学部に係る研究等に関する倫理委員会規程
医療科学部	順天堂大学医療科学部研究等倫理要綱 順天堂大学医療科学部研究等倫理委員会規程
医学部附属病院	順天堂大学医学部附属病院倫理委員会内規

- 動物実験に関する倫理については、「動物の愛護及び管理に関する法律」等に基づき、科学的観点、動物愛護の観点及び環境保全の観点並びに動物実験等を行う教職員・学生等の安全確保を図る観点から、適正に動物実験・管理等を行うため、2007(平成 19)年及び 2008(平成 20)年に『順天堂大学バイオサイエンス安全管理規程』、『順天堂大学動物実験等管理規則』及び『順天堂大学動物実験等

第 8 章 教育研究等環境

部門委員会規程』を制定した。より適正な管理体制を構築するため、2020(令和 2)年に、大学全体委員会と部門委員会の役割の明確化、学長と部門長の責務の明確化を図る等の改正を行った。

(大研戦 8-25 順天堂大学バイオサイエンス安全管理規程)

(大研戦 8-26 順天堂大学動物実験等管理規則)

(大研戦 8-27 順天堂大学動物実験等部門委員会規程)

- 臨床研究中核病院である順天堂医院では、『順天堂大学特定臨床研究等監査委員会規程』に基づいて「順天堂大学特定臨床研究等監査委員会」を設置し、同医院における全ての特定臨床研究等が適切に実施されるために必要な審議、調査等を行っている。特定臨床研究等の実施に関し、不適切な行為等が判明した場合には、関係者の処分、再発防止策の策定等必要な是正措置を講ずることとしている。

(大研戦 8-28 順天堂大学特定臨床研究等監査委員会規程)

- 2023(令和 5)年度に、本学で実施している「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(令和 3 年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第 1 号)下の臨床研究において、個人情報漏えい等の不適合事案が発生していたことが判明した。学長の指示の下、調査委員会を設置し、事実関係の確認、原因究明、データ削除等の措置を速やかに図るとともに、再発防止策として①全教職員に対する研究ルールの再教育、②セキュリティ管理の徹底のほか、③組織ガバナンスの強化(各病院・各学部置く「個人情報管理委員会」を統制するための「個人情報保護委員会」設置、個人情報保護に特化した危機管理対応部署である「個人情報保護管理室」の設置)を図っている。

(大企画 8-2 法人ホームページ 順天堂大学で実施する研究で発生した個人情報漏えい及び倫理指針不適合に関する調査報告)

(大企画 8-3 法人ホームページ 順天堂大学で実施する研究で発生した個人情報漏えい及び倫理指針不適合に関する調査報告(最終報告))

評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- ・ 研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。
- ・ 点検・評価の結果を活用して、研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。

- 『教育研究環境等の整備に関する方針』で掲げた各項目に関しては、各学部・研究科のほか各部門の運営委員会等において、毎年度、検証を行っている。これらを通じて把握した課題・問題点、それに対する取り組みは以下のとおりである。

《大学キャンパス・ホスピタル再編事業》

- 再編事業の有効性や適切性は、理事長を議長とする「再編事業推進会議」(隔月 1 回開催)により、事業の進捗にあわせて検証が行われている。計画の進捗状況は、学内広報誌『順天堂だより』や『事業報告書』等を通じて学内に共有されている。
 - 上記の事業検証を通じて、本郷・お茶の水キャンパスの再編事業では、延べ床面積の拡張はもとより、機能面の大幅な改善が図られ、環境性能に優れた新研究棟及び病院建物が整備されている。
- (大企画 8-1 令和 5 年度事業報告書_大学キャンパス・ホスピタル再編事業計画)

第 8 章 教育研究等環境

《施設・設備の維持・管理》

- 施設課では、施設・設備の増減に対応する維持管理方針と必要な保守契約について毎年度見直しを行い、これに基づく「施設・設備維持管理業務委託仕様書」を作成し委託先に指示している。業務委託による施設・設備の維持管理状況については、日々の報告（日報）により精度管理を行い、その実施状況については「業種別業務委託評価委員会」による多面評価を毎月行い、業務委託の質の向上を図っている。業務の効率化のため、2022(令和 4)年に修理依頼伝票等の電子化、2023(令和 5)年に日報の電子化を行った。
- また、第 17 次(令和 4 年度)自己点検・評価で、自然災害によるエネルギー・交通インフラ途絶時における学生・職員の安全確保のための措置が課題とされ、施設部施設課では、前述（本章 P.100）のとおり、2023(令和 4)年度は、さくらキャンパスにおける井水プラントの増設、浦安・日の出キャンパスにおける太陽光パネルの設置、風力・太陽光で点灯する外灯の設置などを行った。他の地区でも順次対応する予定である。

（大大評 2－27 第 17 次(令和 4 年度)自己点検・評価報告書 問題点及び改善策 まとめ）

《教育研究環境の整備》

(1) 研究戦略推進センター

- 同センターで年 2 回開催する「軽井沢研究戦略会議」において、本学の研究力強化に向けて、研究戦略推進センター研究戦略室長を中心に URA の研究支援活動を振り返り、研究戦略推進センター、企画調査室、情報戦略・IR 推進室、情報センターから研究支援担当が参加し、本学の研究環境に係る戦略的検証を行っている。
- （大研戦 8－29 第 10 回軽井沢研究戦略会議）
- 当会議による議論を踏まえ取り組みの改善に繋がった例として、研究者の競争的研究費等の申請について、研究者一人ひとりに対する URA の支援の充実度を高めるため、2023 年度は科研費に関する支援の開始時期を公募開始 4 カ月前に早める対応を行った。

(2) ダイバーシティ推進センター

- 同センターでは、法人全体におけるダイバーシティ等の推進に必要な事項を審議・検討するため、『学校法人順天堂ダイバーシティ推進センター管理運営規程』に基づき「ダイバーシティ推進委員会」を設置するとともに、取組ごとの 4 つの部門（広報調査・女性就労修学環境支援・学生教育研修・女性研究者支援）に分けて委員会を整備し、定期的に委員会を開催して活動・取組を評価している。
- また、前述の文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」事業においては、東京医科歯科大学との共同実施であることから、内部評価委員会、外部評価委員会の 2 つの委員会を設置し、学内外それぞれの観点から取組を評価し課題事項の抽出・改善などを行っている。
- 同センターでは、上記の委員会や会議等で示された課題や問題点を基に当年度又は次年度の計画を見直し、それらの課題解決に向けて、関係部署と連携しながら、既存の取り組みの改善や新規取り組みの企画等を行っている。女性研究者支援部門委員会において「ワーク・ライフ・バランス実現のための研究支援制度」について議論を行い、その時々ニーズに合わせた制度の利用対象者の変更や審査方法の改定などを行った。

（大ダ推 8－9 法人ホームページ「ダイバーシティ推進センター」「部門紹介」）

（大ダ推 8－10 東京医科歯科大学ホームページ ダイバーシティ・インクルージョン室 実施体制）

第 8 章 教育研究等環境

(大ダ推 8-11 グローバル女性リーダー双発・飛翔プロジェクト 内部評価委員会概要)

(大ダ推 8-12 グローバル女性リーダー双発・飛翔プロジェクト 外部評価委員会概要)

(大ダ推 8-13 ダイバーシティ推進委員会 各部門委員)

(3) 学部・研究科

- スポーツ健康科学部及びスポーツ健康科学研究科では、毎年 2 月及び 6 月頃に実験実習用機器、研究用機器について購入調査を行い、分野リーダーの審査の後、学部長、研究科長、教務委員長、研究委員長にて最終審査を行っている。前年に購入した機器が有効に利用されているかどうかを確認するため、5~6 月頃に報告書の提出を義務付け、検証している。2023(令和 5)年度は、要望の高かった運動生理学実験室トレッドミル室恒温恒湿空調設備を更新したことで、実験・研究の質と学生の満足度が向上した。健康生命科学・生理学共同実習室の AV 機器を更新したことで、講義の質の向上に寄与した。

(大ス 8-1 令和 5 年度購入の実験実習用機器・研究用機器実績報告書)

《ICT 教育研究基盤の整備》

- ICT 教育研究基盤については、本郷地区情報センターを中心に点検・評価を行い、整備計画の改善・見直しを図っている。ICT 環境に関する各部門からの要望は「システム要望書」により把握し、同センターで精査の上、計画に反映している。
- 第 17 次(令和 4 年度)自己点検・評価で、本郷キャンパス内各施設(センチュリータワー教室、第二・第三教育棟)の通信環境の改善が課題とされたことを受け、同センターでは、2023(令和 5)年度に文部科学省補助金を活用した無線 AP の増設、回線の増速等の措置を行った。

(大大評 2-27 第 17 次(令和 4 年度)自己点検・評価報告書 問題点及び改善策 まとめ)

2. 分析を踏まえた長所と問題点・課題

2-1. 長所

1) CO₂排出量削減の取り組み

前述(本章 P.100)のとおり、「CO₂削減ロードマップ」に示した各種取り組みにより、着実に CO₂排出削減を進めている。特に中長期の省エネ投資により、単位床面積当たりのエネルギー使用量＝CO₂排出量は継続して減少している。

(大施設 8-2 設備投資によるエネルギー使用合理化計画)

(大施設 8-3 エネルギーの使用に係る原単位の推移)

2) 継続的な研究支援体制の強化

競争的資金の獲得戦略の立案、補助金の申請書作成、研究成果の広報等の業務を研究者と連携して行う URA の採用により、研究者の研究活動時間の確保と科研費助成事業をはじめとした公的研究費等の外部資金の獲得に効果を発揮している。

法人による継続した基礎的・基盤的研究への財政支援と人的支援も研究力の強化に寄与している。財政支援においては、「学長プロジェクト研究費」等のプロジェクト研究費補助が、科研費等の競争的研究資金の獲得増に繋がっている。人的支援においては、研究支援人材として、URA(5 名)を配置していることに加え、大学院附置研究センター・研究所の優秀な若手人材の特任助教としての任用、各センターでのポスドクの雇用、リサーチ・アシスタント(RA)及び研究補助者の

第 8 章 教育研究等環境

採用などを行い、研究基盤の強化を図っている。

3) 共同研究講座等の拡大

共同研究講座・寄付講座・産学協同研究講座の設置は、研究活動の活性化を示す 1 つの指標と考えられる。本学は、近年、共同研究講座・寄付講座・産学協同研究講座の設置数を増やしており、その数は約 62 講座と 60 を超え、産学共創とともに産学連携によるオープンイノベーションの土台として発展を続けている。

4) 女性上位職者の更なる拡大

本学は、科研費採択件数が 400 件以上ある大学のうち、採択件数に占める女性比率において、2023(令和 5)年度までの過去 10 年間で 1 位となっている(27.1%~32.9%)。これまでの支援により、女性研究者にとって研究に取り組みやすい環境が整備されてきた結果と考えられる。引き続き学内研究費の支援等を継続的に行い、科研費採択件数に占める女性比率を上げるとともに、女性上位職者数を増加させることが出来るよう取り組みを進めていく。

2-2. 問題点・課題

1) 更なるエネルギーの削減

東京都の「総量削減義務と排出量取引制度」の適用により、更なるエネルギーの削減を求められている。各地区とも継続して省エネ設備への投資や設備更新及び CO₂削減ロードマップに基づいた削減を実施しているが、設備による削減だけではいずれ限界を迎えることが見込まれており、更なる取り組みが必要である。

2) URA 支援サービスの逼迫

URA が提供する競争的資金獲得戦略の立案、補助金の申請書作成などのサービスに対する研究者の依頼が拡大傾向にあり、人的リソースの整備、確保が課題となっている。

3) 研究倫理教育の受講時期の見直し

『順天堂大学研究倫理教育に関する実施要領』では、研究活動に携わる教職員に対し、研究倫理教育プログラムの受講と 5 年毎の再受講を義務付けているが、再受講までの間隔が長く、タイミングの見直しを検討する必要がある。

4) 情報セキュリティに関する規程の見直し

現行の『情報セキュリティポリシー』は、情報セキュリティの方針等の他、下位規程で定めるべきポリシーを実践するための具体的な条項が混在しているため、見直しが必要である。

3. 改善・発展方策

3-1. 長所の発展方策

1) CO₂排出量削減の取り組み

細部にわたる実施検証データを基に計画の再検討を行い、投資効果の最適化を図る。照明の LED 化、熱源の高効率化、動力のインバーター制御化等ハード面の省エネ投資を継続するとともに、使用者への啓蒙を進める。

第 8 章 教育研究等環境

2) 継続的な研究支援体制の強化

今後も、URA を中心とした研究支援体制を強化し、教育・研究・医療分野における次世代の担い手となる研究者輩出を可能とする研究支援体制の整備を図る。URA による研究者の支援活動において、データ処理の自動化ソフトを導入し効率化を行い、研究者にとって申請書作成に役立つ参考資料を幅広い分野で整備し、さらなる競争的資金の獲得、研究者の研究時間の確保を図る。

3) 共同研究講座等の拡大

共同研究講座・寄付講座・産学協同研究講座の申請において、申請を検討する研究者や企業に、申請案内時に積極的にヒアリングし、活動の早期化や必要なニーズへの支援が進むよう取り組む。

4) 女性上位職者の更なる拡大

女性上位職者を増やすポジティブアクションとして取り組んでいる「女性医師等特任教員任用制度」を継続的に実施し、教授・准教授以上の女性上位職者数の増加を図っていく。また、当該女性上位職やその前段階の教員等に対する研究費の支援や女性教授によるメンタリングなどの支援を行っていく。

3-2. 問題点・課題の改善方策

1) 省エネ対策の強化

教職員及び学生にエネルギーに関するコスト意識を強く持たせ、省エネに繋がる建物の運転管理や空調運転を更に促していく。節電や空調運転時間の制限・削減、建物別エネルギーコストの公表などを実施し、更なる省エネを図る。更新時期を迎えた照明設備や空調設備等についても、より高効率な設備への切り替えを段階的に進めていく。

2) URA 人材の確保・体制の強化

『順天堂大学リサーチ・アドミニストレーター（高度学術専門職員）に関する規則』、『順天堂大学特定職員（高度学術専門職員）に関する内規』を整備し、URA を本学での貢献度に応じて主任 URA、チーフ URA（特定准教授）、シニア URA（特定専任准教授）、主席 URA（特定教授）として評価する制度を導入し、優秀な URA 人材の確保と体制の拡充を図る。

3) 研究倫理教育の受講時期の見直し

研究倫理教育プログラムの再受講について、適切なタイミングへの見直しを検討する。

4) 情報セキュリティに関する規程の見直し

現行の『情報セキュリティポリシー』の見直し及び情報セキュリティ関連規程の策定を行う。

4. 全体まとめ

「教育研究等環境の整備に関する方針」に沿って教育研究環境の整備を進めている。大学キャンパス・ホスピタル再編事業により、本郷・お茶の水キャンパスの整備事業は完了した。延床面積は大幅に拡張され、環境性能に優れた大学建物・病院建物が整備されている。建物の構造耐震化は完

第 8 章 教育研究等環境

了し、省エネや CO2 排出削減など環境に配慮した施設運営に取り組んでいる。ICT 化教育基盤整備も進んでおり、学術メディアセンター（図書館）、学術情報サービスの充実が図られ、学生・教員の利便性は向上している。

文部科学省補助金なども活用し、最先端の装置・設備を導入しており、持続的に教育研究成果を生み出せるよう環境を整えている。URA 等の研究支援専門職を配し、研究者が研究に専念できる体制を整備している。TA や RA を雇用する等、教育研究支援体制の整備も進めている。各種プロジェクト研究が公募され、共同研究を推奨する仕組みが出来ている。研究倫理に関する各種規程が整備され、学内審査が適切に運営されている。

教育研究等環境の適切性については、「大学キャンパス・ホスピタル再編事業」、施設・設備の維持管理」、「教育研究環境及び ICT 教育研究基盤整備」等の項目で、毎年度、全学的な自己点検・評価を行っていることに加え、各々所管する会議・委員会等で点検・評価を行い、その結果を改善・向上に結び付けている。

第8章 教育研究等環境

5-1. 根拠資料（大学全体）

資料 No.	各部署の 資料整理No.	資料名称
1	大大評8-1	法人ホームページ 「各種方針」「教育研究等環境の整備に関する方針」 https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/policy/
2	大再編8-1	本郷再編整備スケジュール資料
3	大再編8-2	法人ホームページ 学校法人として日本初の LEED-New Construction 版・プラチナを取得_2021年6月 https://www.juntendo.ac.jp/news/00161.html
4	大企画8-1	令和5年度事業報告書_大学キャンパス・ホスピタル再編事業計画(P.43) https://www.juntendo.ac.jp/assets/43cbee881064382836af6886d7b34afa.pdf
5	大総務8-1	大地震による被災を想定した防災計画・事業継続計画(BCP)
6	大施設8-1	法人ホームページ 順天堂と東京ガスによるカーボンニュートラル推進に向けた取り組みについて_2022年1月 https://www.juntendo.ac.jp/news/00082.html
7	大総務8-2	エコキャンパス・ホスピタルの取組み
8	大研戦8-1	順天堂大学研究戦略推進センター管理運営内規
9	大臨治8-1	順天堂大学医学部附属順天堂医院 臨床研究・治験センター運営規程
10	大臨治8-2	臨床研究・治験センター ホームページ 順天堂 ARO の支援について https://jcrtc.juntendo.ac.jp/about/aro/
11	大革新8-1	順天堂大学革新的医療技術開発研究センター管理運営規程
12	大研戦8-2	研究施設の概要 2023
13	大研戦8-3	法人ホームページ 「共同研究講座・寄付講座・産学協同研究講座」 https://www.juntendo.ac.jp/research/collaboration/kyodokenkyukouza/
14	大研戦8-4	順天堂大学健康総合科学先端研究機構管理運営規程
15	大研戦8-5	順天堂大学スポーツ健康医科学推進機構管理運営規程
16	大研戦8-1	順天堂大学国際共同研究機構管理運営規程
17	大情8-1	学校法人順天堂情報センター本部本郷地区情報センター規程
18	大情8-2	学校法人順天堂情報セキュリティポリシー
19	大情8-3	順天堂大学学術ネットワーク運営規程
20	大情8-4	学校法人順天堂個人情報保護に関する基本方針
21	大情8-5	学校法人順天堂個人情報保護管理規程
22	大情8-6	ポータルサイト 情報システム利用に伴う危機対応マニュアル https://portal.med.juntendo.ac.jp/guideline/Information-security/manual.html
23	大情8-7	情報倫理ガイドライン
24	大情8-8	順天堂大学ソーシャルメディア利用ガイドライン
25	大学メ8-1	順天堂大学学術メディアセンター規則
26	大学メ8-2	本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター利用の手引き
27	大学メ8-3	順天堂大学学術情報リポジトリ https://jair.repo.nii.ac.jp/?page=1&size=100&sort=controlnumber&search_ty

第 8 章 教育研究等環境

資料 No.	各部署の 資料整理No.	資料名称
		pe=0&q=0
28	大学メ 8-4	順天堂大学オープンアクセス方針
29	大学メ 8-5	順天堂大学オープンアクセス方針実施要項
30	大研戦 8-6	順天堂大学の研究費に関する要領
31	大大評 8-2	各学部・研究科の教育研究等を支援する取り組み
32	大研戦 8-7	ポータルサイト 学長プロジェクト研究費 https://portal.med.juntendo.ac.jp/research/kenkyusenryaku/koubo/08.html
33	大研戦 8-8	ポータルサイト 共同プロジェクト研究費 https://portal.med.juntendo.ac.jp/research/kenkyusenryaku/koubo/07.html
34	大研戦 8-9	順天堂大学公的研究費使用マニュアル 2023 年度
35	大研戦 8-10	順天堂大学大学院医学研究科疾患モデル研究センター管理運営規程
36	大研戦 8-11	順天堂大学大学院医学研究科研究基盤センター管理運営規程
37	大研戦 8-12	【募集案内】教研機器 A 枠（基盤センター優先枠）及び（センター共有設備枠）
38	大国交 8-1	順天堂大学教員のサバティカル研修に関する規程
39	大国交 8-2	教員のサバティカル研修制度活用実績_2023 年 10 月現在
40	大研戦 8-13	順天堂大学特定職員（高度学術専門職員）に関する内規
41	大研戦 8-14	順天堂大学リサーチ・アドミニストレーター（高度学術専門職員）に関する規則
42	大研戦 8-15	法人ホームページ 「研究活動」「研究戦略推進センター」「URA」 https://www.juntendo.ac.jp/research/organization/kenkyusenryaku/staff/
43	大研戦 8-16	学校法人順天堂知的財産取扱規程
44	大研戦 8-17	順天堂大学安全保障輸出管理規程
45	大研戦 8-18	順天堂大学における安全保障輸出管理について
46	大研戦 8-19	順天堂大学大学院研究スタッフに関する規程
47	大ダ推 8-1	学校法人順天堂ダイバーシティ推進センター管理運営規程
48	大ダ推 8-2	法人ホームページ 「ダイバーシティ推進センター」「採択プロジェクト」 https://www.juntendo.ac.jp/diversity/about/project/h23shien/
49	大ダ推 8-3	令和 5(2023)年度 学長プロジェクト(若手女性枠) 募集要項
50	大ダ推 8-4	女性大学人育成支援_グローバルリーダー育成に向けての勉強会メンバーを対象とした支援の実施について
51	大ダ推 8-5	女性教授・准教授数の推移
52	大ダ推 8-6	ポータルサイト 学長プロジェクト研究費（リスタートアップ支援） https://portal.med.juntendo.ac.jp/department/kyodoss/ResearchSupport/restart.html
53	大ダ推 8-7	学長プロジェクト研究費(リスタートアップ支援) 公募要領
54	大ダ推 8-8	2023 年度 ワーク・ライフ・バランス実現のための研究支援制度 利用者の募集について
55	大研戦 8-20	順天堂大学における学術研究活動に係る行動規範
56	大研戦 8-21	順天堂大学における公正な研究活動の推進に関する規程
57	大研戦 8-22	順天堂大学研究倫理教育に関する実施要領

第 8 章 教育研究等環境

資料 No.	各部署の 資料整理No.	資料名称
58	大大評 8 - 3	各学部・研究科における倫理に関する科目一覧
59	大院医 8 - 1	順天堂大学大学院医学研究科・研究ガイドライン
60	大研戦 8 - 23	順天堂大学利益相反マネジメント規程
61	大研戦 8 - 24	順天堂大学医学系研究利益相反マネジメント規程
62	大臨治 8 - 3	人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理規程
63	大研戦 8 - 25	順天堂大学バイオサイエンス安全管理規程
64	大研戦 8 - 26	順天堂大学動物実験等管理規則
65	大研戦 8 - 27	順天堂大学動物実験等部門委員会規程
66	大研戦 8 - 28	順天堂大学特定臨床研究等監査委員会規程
67	大企画 8 - 2	法人ホームページ 順天堂大学で実施する研究で発生した個人情報漏えい及び倫理指針不適合に関する調査報告 https://www.juntendo.ac.jp/news/14738.html
68	大企画 8 - 3	法人ホームページ 順天堂大学で実施する研究で発生した個人情報漏えい及び倫理指針不適合に関する調査報告(最終報告) https://www.juntendo.ac.jp/news/17047.html
69	大研戦 8 - 29	第 10 回軽井沢研究戦略会議
70	大ダ推 8 - 9	法人ホームページ 「ダイバーシティ推進センター」「部門紹介」 https://www.juntendo.ac.jp/diversity/activity/department/
71	大ダ推 8 - 10	東京医科歯科大学ホームページ ダイバーシティ・インクルージョン室 - 実施体制
72	大ダ推 8 - 11	グローバル女性リーダー双発・飛翔プロジェクト 内部評価委員会概要
73	大ダ推 8 - 12	グローバル女性リーダー双発・飛翔プロジェクト 外部評価委員会概要
74	大ダ推 8 - 13	ダイバーシティ推進委員会 各部門委員
75	大ス 8 - 1	令和 5 年度購入の実験実習用機器・研究用機器実績報告書
76	大施設 8 - 2	設備投資によるエネルギー使用合理化計画
77	大施設 8 - 3	エネルギーの使用に係る原単位の推移